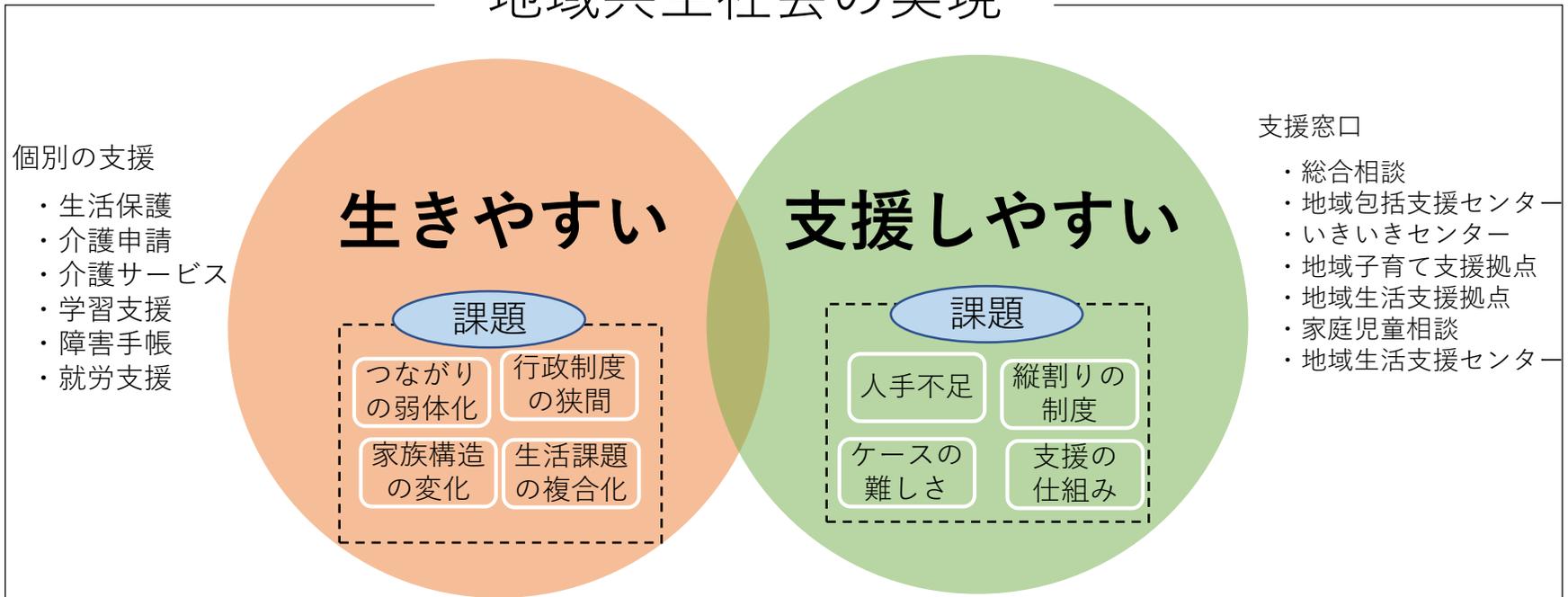


令和4年度～ 柏市重層支援体制整備事業の方向性

事業概要

本市の重層的支援体制整備

地域共生社会の実現



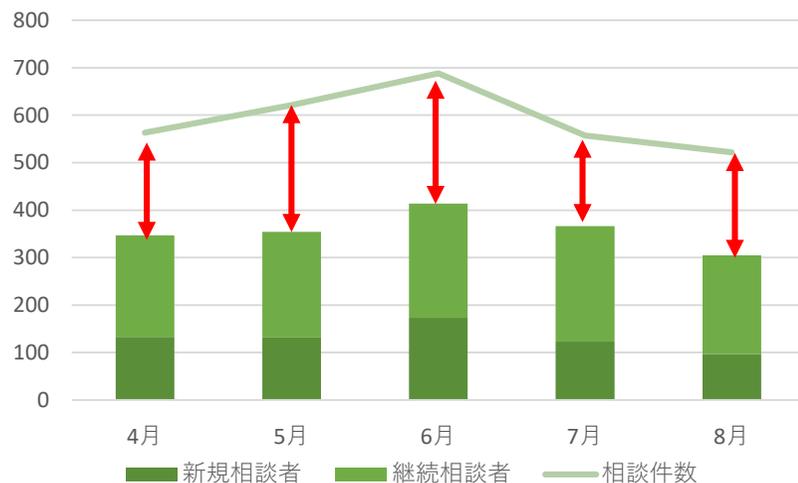
新たな支援制度の構築ではなく

既存の支援機関や専門職の負担を軽減しながら、
身近な地域で効果的に市民を支援し、その人らしい生活を送れる社会を実現する

本市の重層的相談の現状

総合相談窓口（あいネット）の相談実績

R3年度 総合相談窓口受付の相談件数



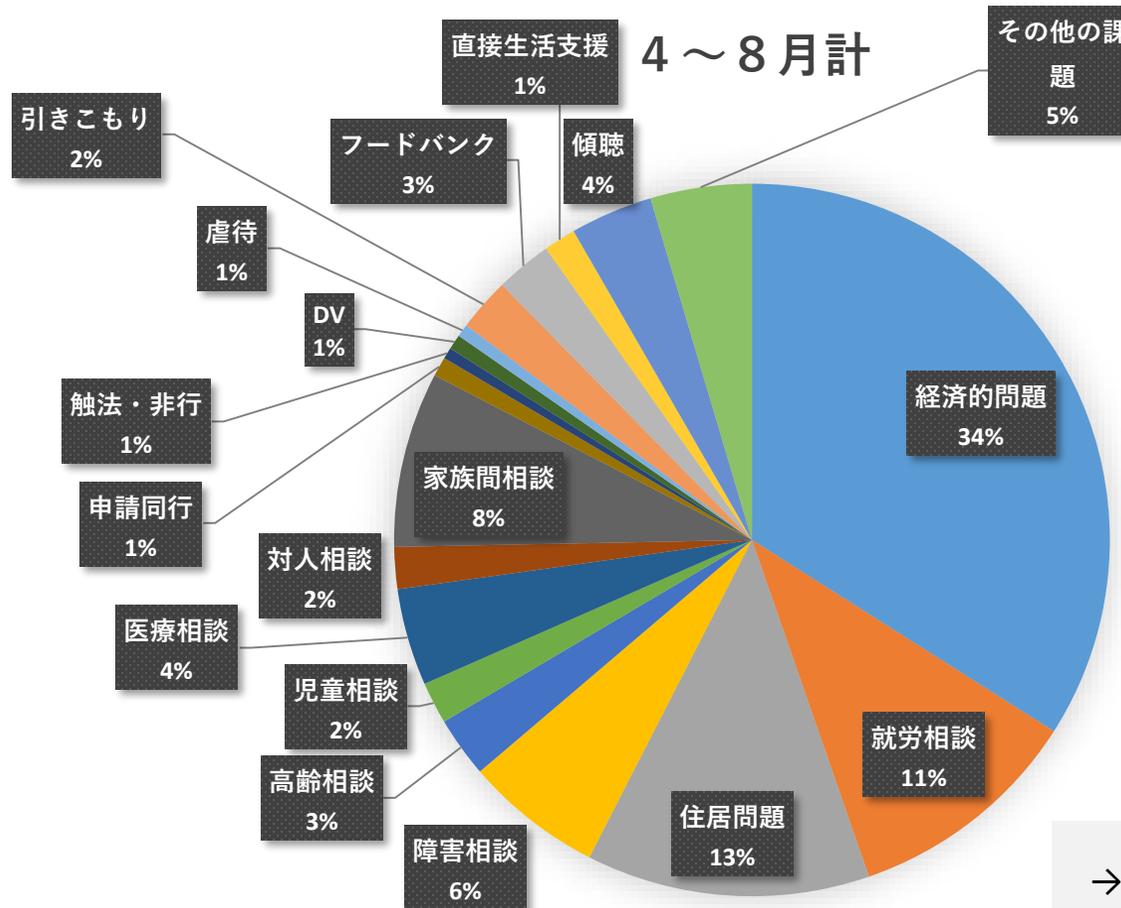
	4月	5月	6月	7月	8月
相談件数（延べ）	1356	1507	1707	1763	1668

	4月	5月	6月	7月	8月
新規相談者	133	132	173	123	97
継続相談者	214	222	241	243	208
相談者計 [Ⓐ]	347	354	414	366	305
内容別相談件数計 [Ⓑ]	563	621	688	557	522
差 [Ⓑ] - [Ⓐ]	216	267	274	191	217

- ・ 継続相談者の数が減少しない
 - ・ 1か月に同じ対象者の相談が4～5回（週に1度は相談している）
- 相談内容が複雑なため、早期に解決しない
- ・ 相談者数と相談件数の差が大きい
- 複数の課題の相談が多い

本市の重層的相談の現状

総合相談窓口（あいネット）の相談内容



→相談が多岐に渡っている

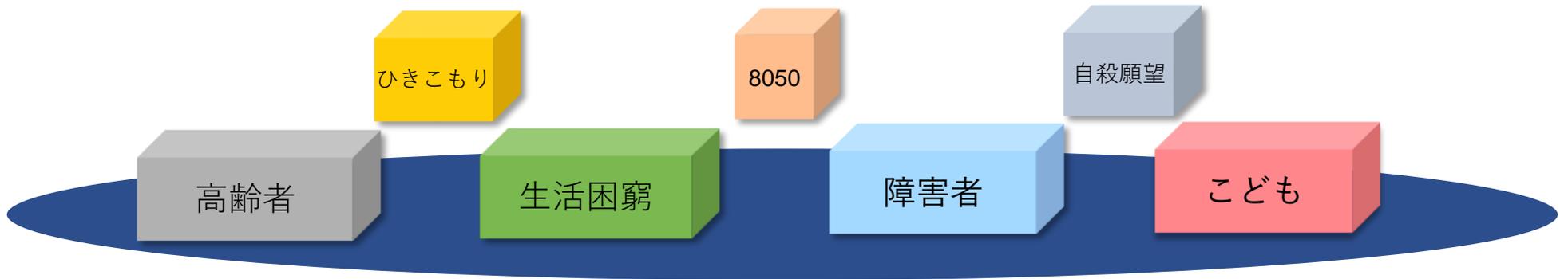
本市の重層的相談の現状

各相談機関から他の機関につないだ件数

	R3.1月	R3.2月	R3.3月	R3.4月	R3.5月	R3.6月	R3.7月	R3.8月	合計
地域包括支援センター	9	5	6	10	10	6	9	4	59
地域生活支援拠点	0	0	0	0	1	5	4	7	17
いきいきセンター	3	5	6	7	9	6	1	4	41
家庭児童相談	2	2	3	0	7	1	7	7	29
地域子育て支援拠点（はぐはぐ）	0	0	0	0	0	1	1	1	3
総合相談（あいネット）	4	5	5	6	9	5	4	4	42
計	18	17	20	23	36	24	26	27	191



- ・ 複合課題を受付し、つなぎ先が不明なことから総合相談へのつなぎ需要が増えつつある
- ・ 専門相談機関だけでは対応できず別機関へのつなぎを必要とするケースが多い
→ 生きづらさを感じている人が多い



STEP 1
各制度のはざまに落ちないように専門機関同士が連携し「面」による相談支援体制を構築

<支援①>

課題・お困りごと

その後


母
(80歳)

80代女性
・誰も手伝ってくれる人がいない。
・買物が不自由になってきたので支援が必要
・定職につかず、引きこもり気味の息子が心配

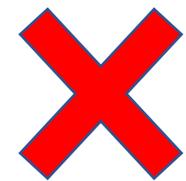
地域包括支援センターに相談

<母>
・介護認定され、サービスにつながる
<息子>
・一方で、息子の将来に対する不安は消えない。


息子
(48歳)

48歳息子
・引きこもり気味
・母の貯金や年金があるので、生活に直ちに困っていない

特に相談しない



解決しない・・・

<支援②>

80代女性
・誰も手伝ってくれる人がいない。
・買物が不自由になってきたので支援が必要
・定職につかず、引きこもり気味の息子が心配

母が息子のことも含めて、地域包括支援センターに相談

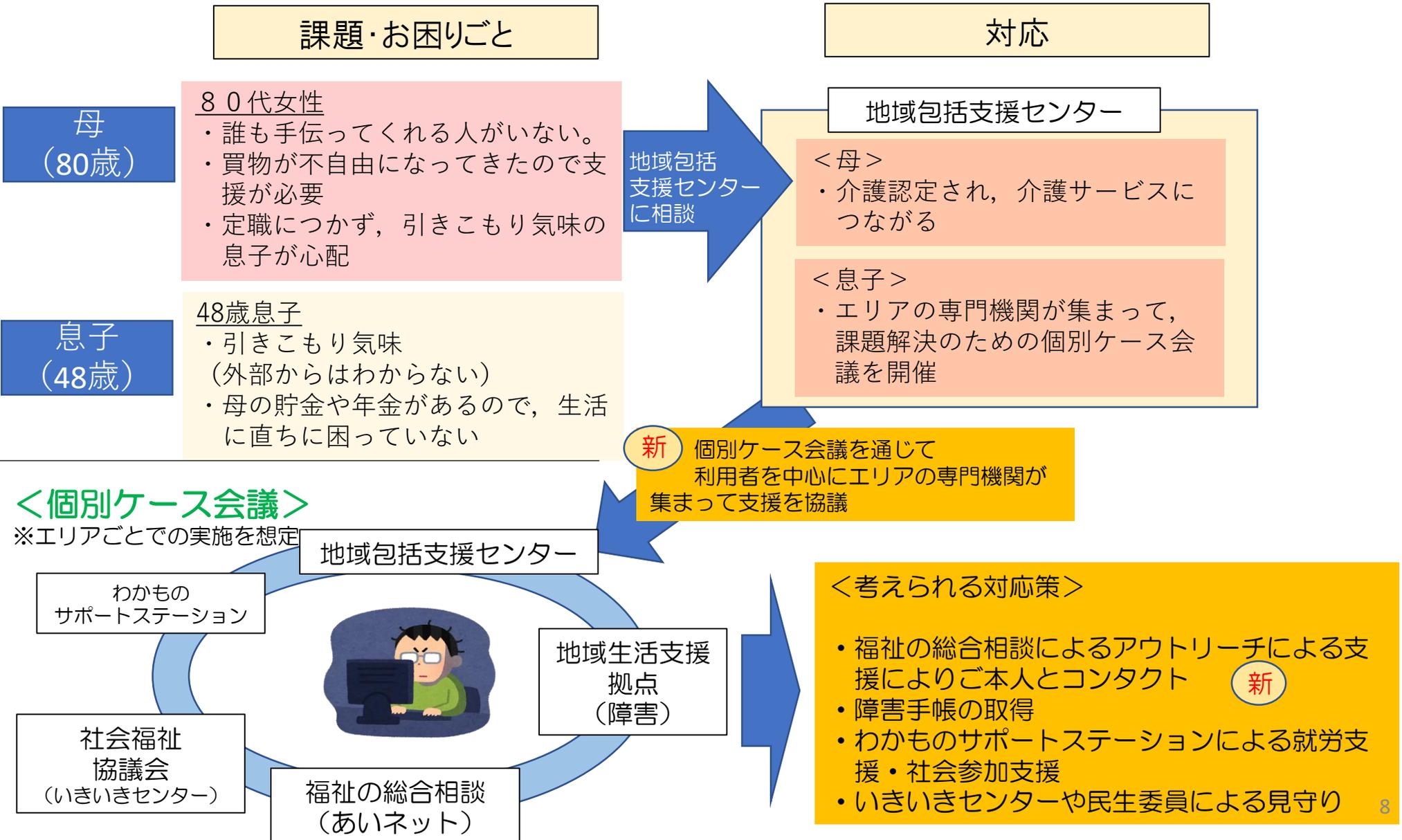
<母>
・介護認定され、介護サービスにつながる
<息子>
・地域包括支援センターは年齢が介護保険対象外なので、母から聞き取った内容で連携先を探すが・・・。


母
(80歳)

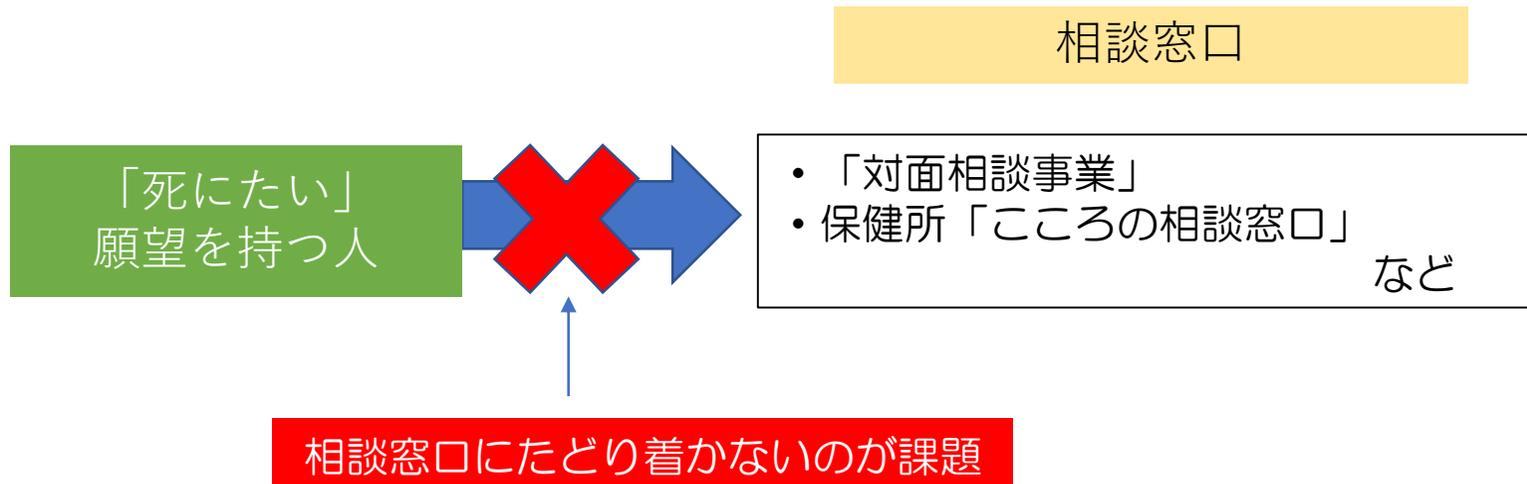
48歳息子
・引きこもり気味
・母の貯金や年金があるので、生活に直ちに困っていない


息子
(48歳)

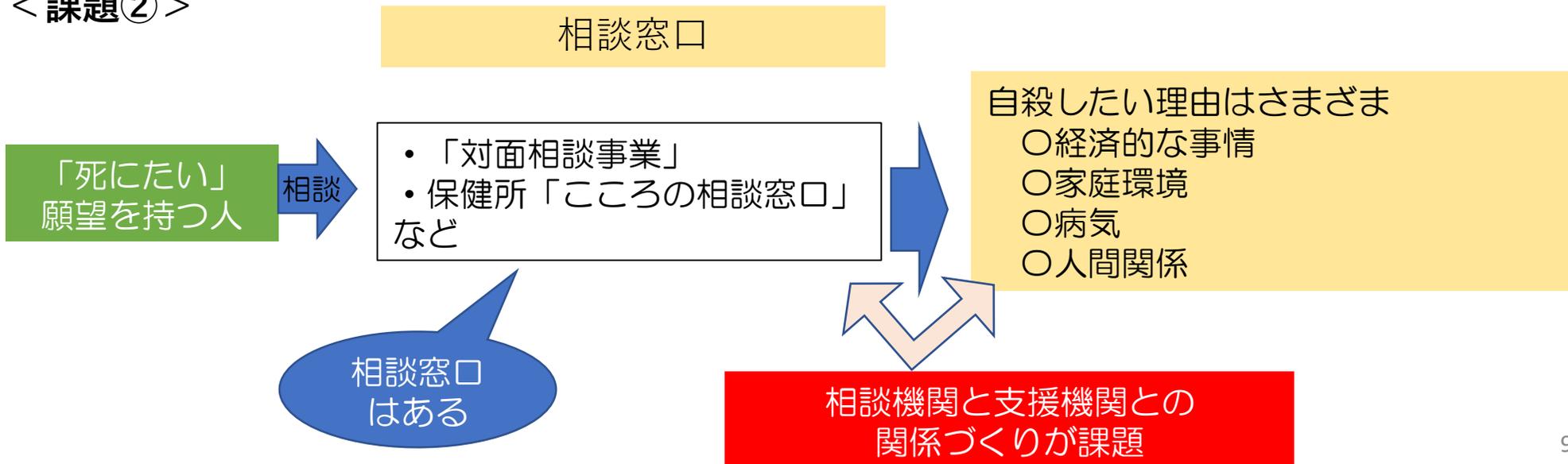


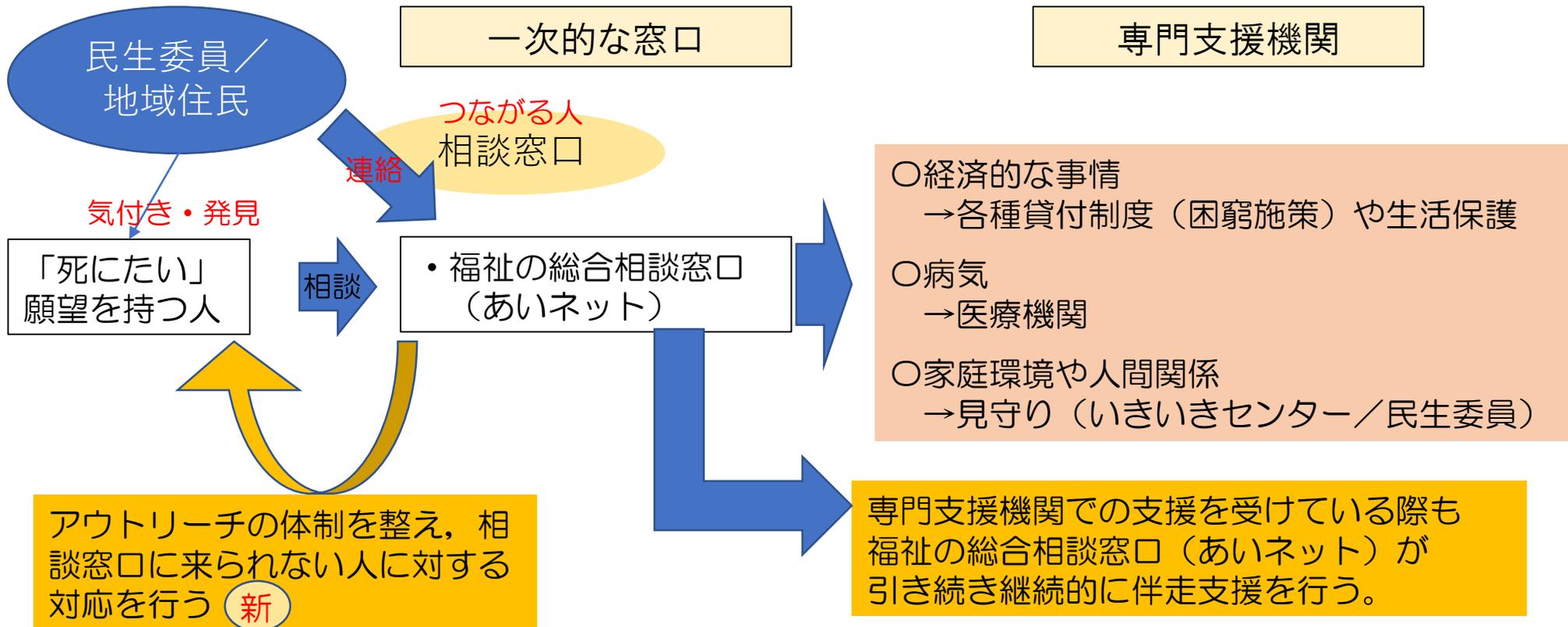


<課題①>



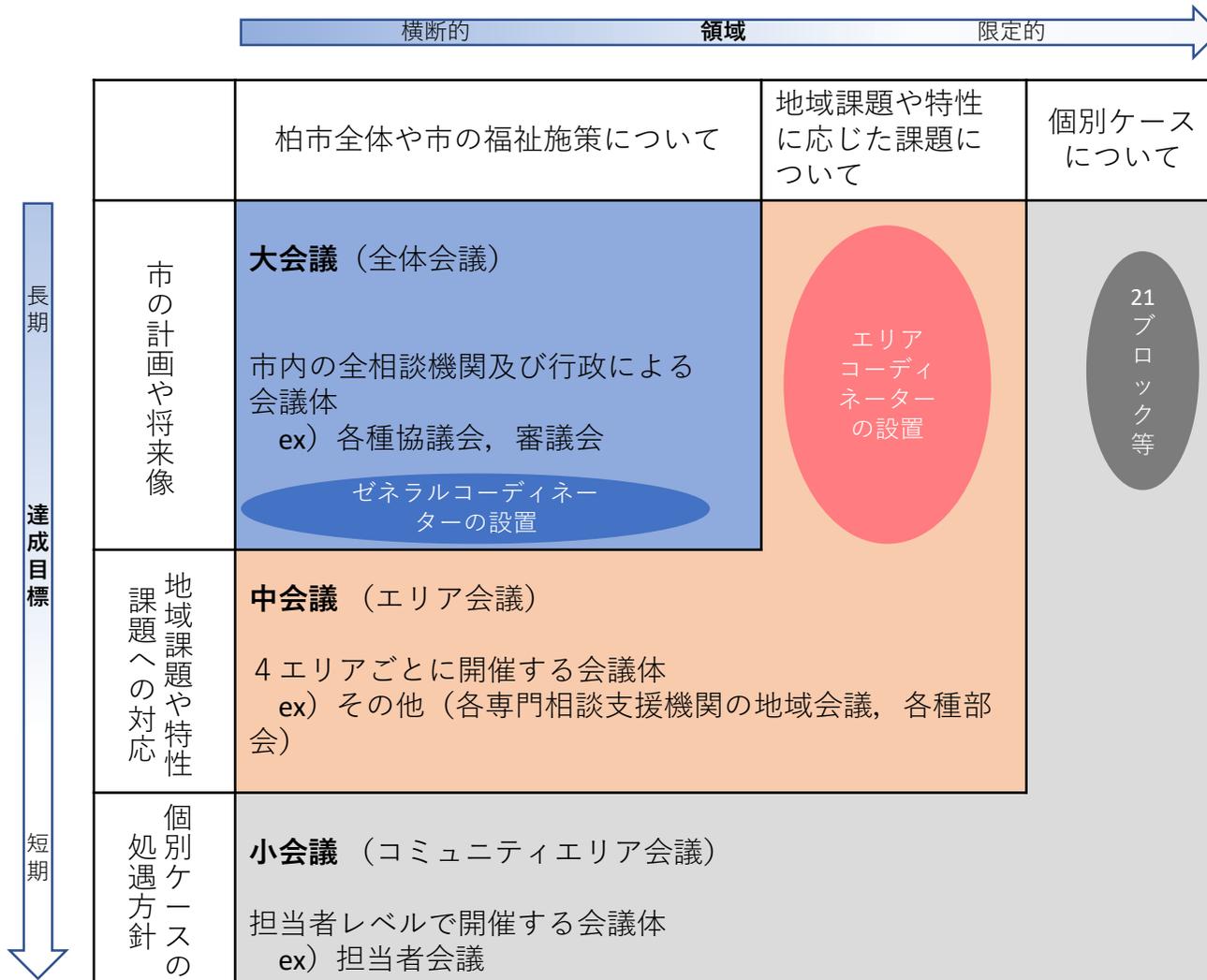
<課題②>





令和4年度～ 柏市重層的支援体制 多機関協働事業

多機関協働事業



福祉課題が複雑化・複合化する相談者の支援については、その課題に応じた地域の専門相談支援機関を紹介するだけではなく、各機関が実際に連携し、包括的な支援をする必要がある。

ゼネラルコーディネーター【役割】

- ・柏市全体の福祉政策について、情報交換や共有の場をセッティング
- ・エリアごとの課題から必要な政策について、行政機関とともに検討

エリアコーディネーター【役割】

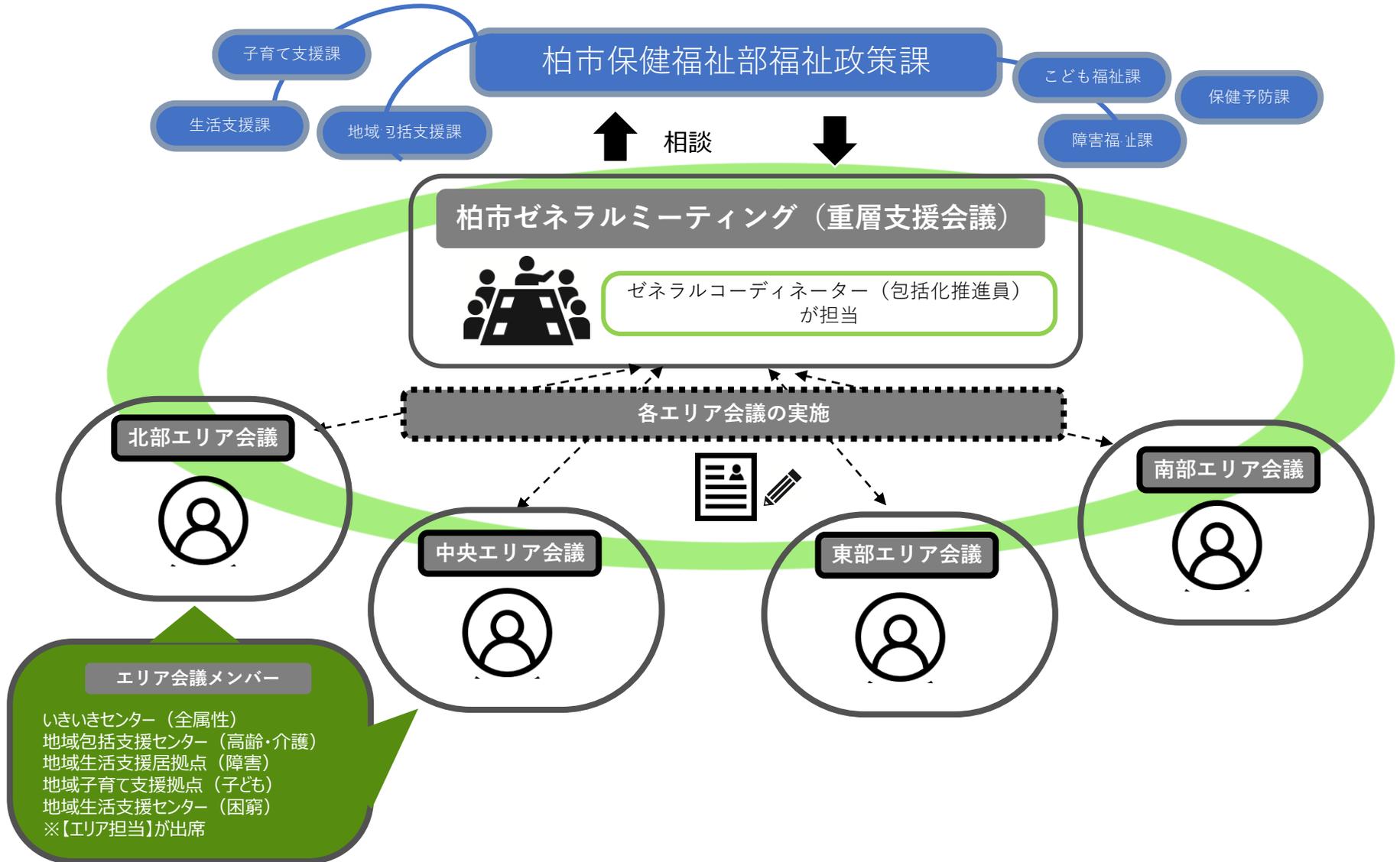
- ・個別ケースでの困難ケースを関係機関から受付。伴奏支援に向けて、必要なコーディネートを行う
- ・困難ケース検討を通じて、地域課題の抽出、課題解決に向けた案を協議する場をセッティング

多機関協働事業と専門機関同士の連携について（イメージ）

	個別ケア会議	中会議	大会議（市全域）
エリア別	21ブロック別	4～5ブロック程度に1つ	市全体（1ブロック）
参加機関・参加者	専門機関を中心に関係者が参加。 （ケースごと都度柔軟に） 場合によっては、本人、家族なども参加	専門機関を中心に関係者が参加。	行政と専門機関の代表者
会議のコーディネーター	エリアコーディネーター 各専門相談機関	エリアコーディネーター	ゼネラルコーディネーター
テーマ	個別の利用者に対し関係者が支援策を話し合う。	個別ケア会議での議論などを踏まえ、地域課題の受け止めや支援策を議論	市域全体の福祉トピックなどについて
具体例	Aさん家族の8050問題に「ついて、当該家族の個別課題を一元的に把握・共有しつつ対応する必要があり、そのエリア内の ①包括支援センター ②地域生活支援拠点（障害） ③柏市社会福祉協議会 ④福祉の総合相談などが参加する会議を開催。	（各個別ケア会議での議論を積み上げ、） ・引きこもりの人の居場所づくり ・支援の必要な人への見守りなどの在り方など、地域課題に対する対応策を議論する。	<ul style="list-style-type: none"> ・市の福祉施策や課題について、市全体で、情報共有や意見交換を行う。 ・エリアごとの課題から必要な政策について、行政機関とともに検討。

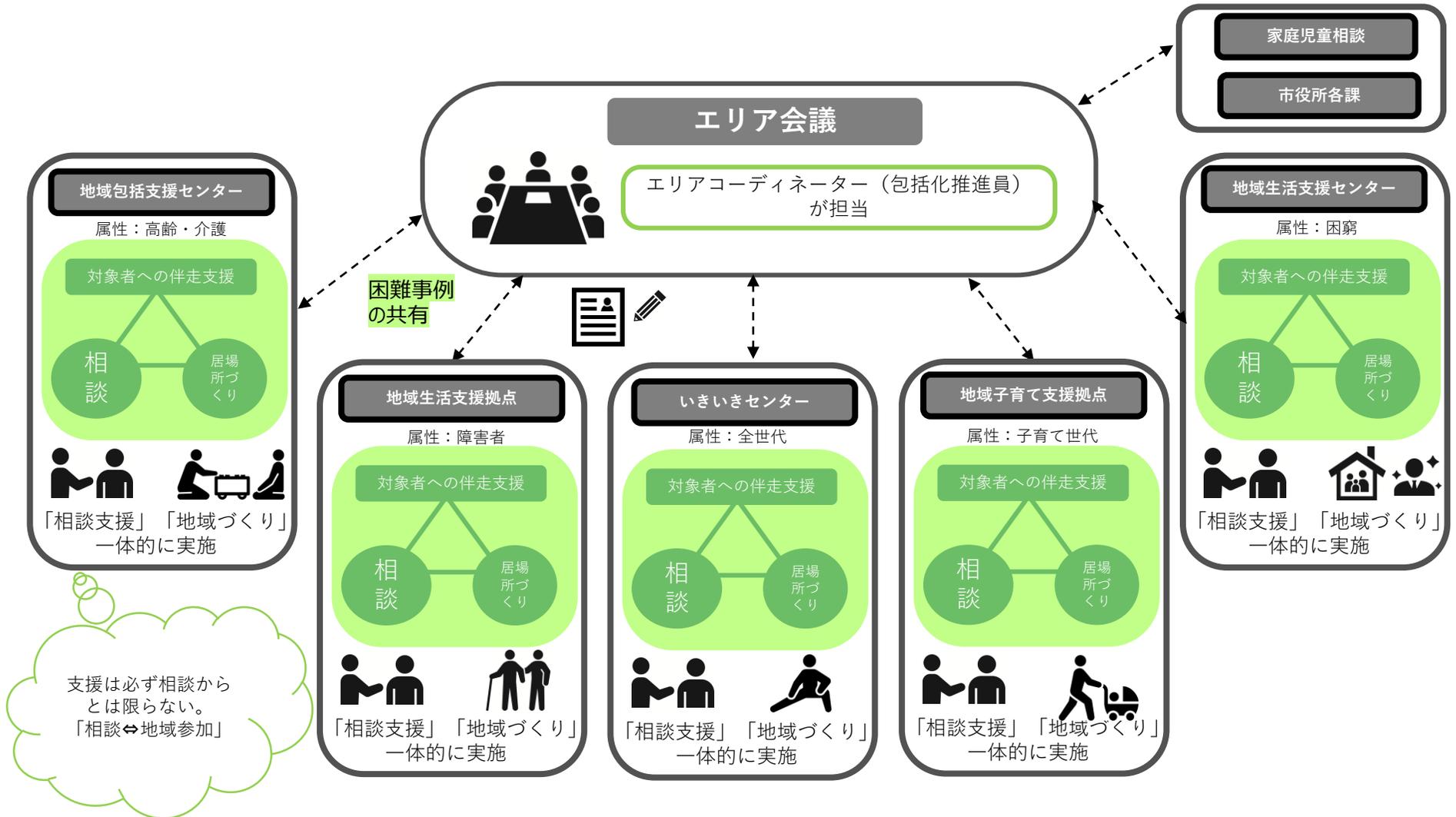
令和4年度～ 柏市重層的支援体制 新 多機関協働事業

多機関協働事業（全体会議）

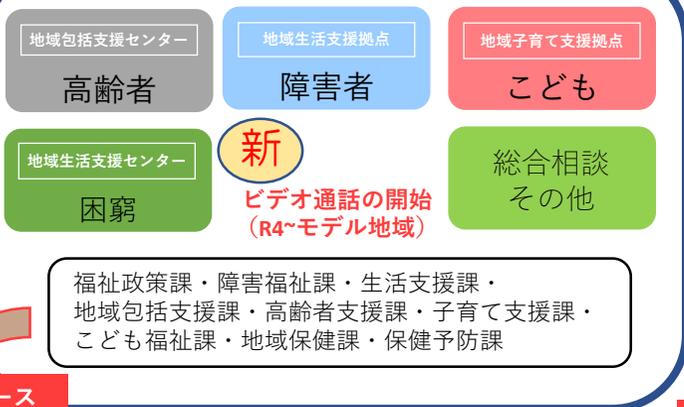


令和4年度～ 柏市重層的支援体制 新 多機関協働事業

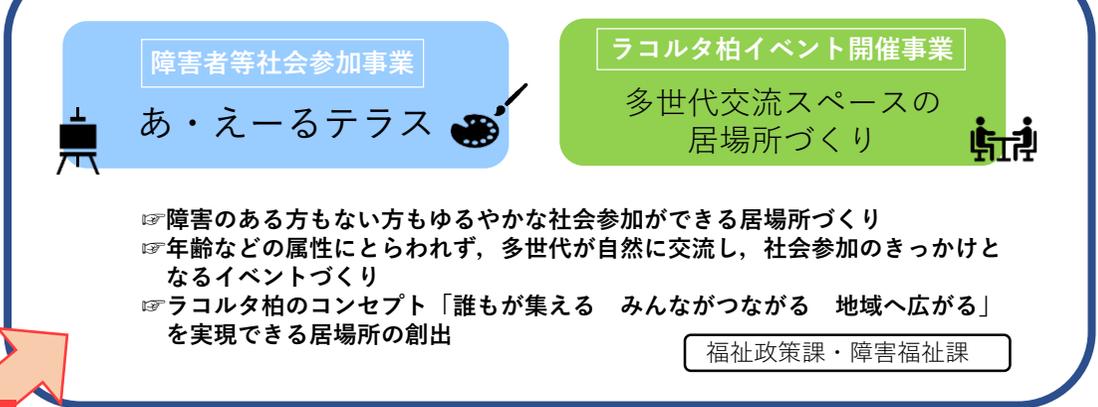
多機関協働事業（エリア会議）



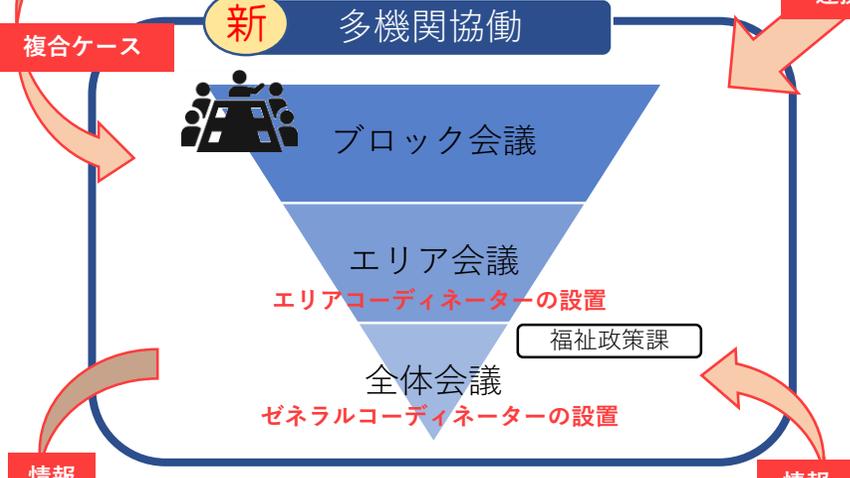
断らない相談窓口



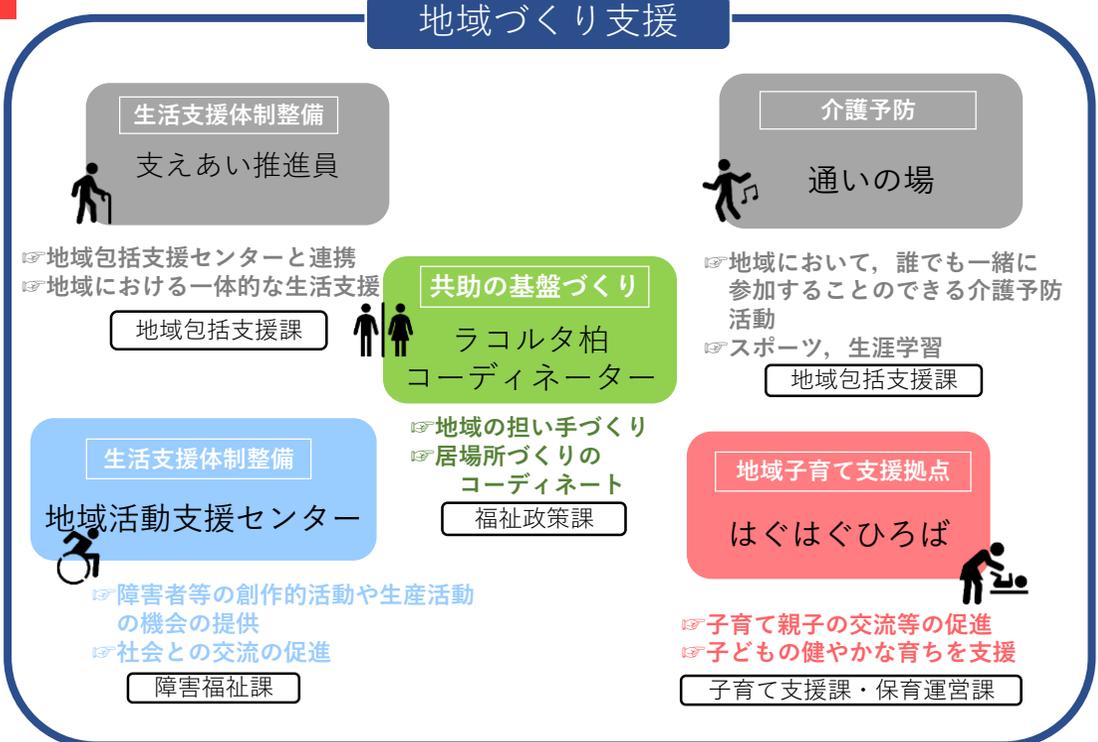
新 参加支援



新 多機関協働



地域づくり支援



アウトリーチ

